Infectious Diseases Weekly Report
iDWR HIROSHIMA City
2017年第33週（8月14日～8月20日）
広島市感染症週報
広島市感染症対策協議会・広島市感染症情報センター

■コメント

1．RSウイルス感染症

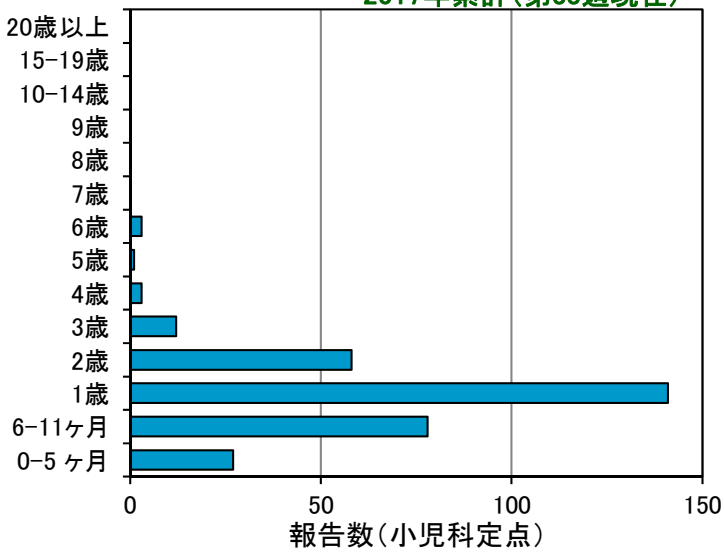
定点当たり1.42人の報告があり、例年同時期と比べて多くなっています。

2017年第1～33週までの累積報告数（323件）の年齢階層別割合をみると、1歳（43.7%）、0歳（32.5%）、2歳（18.0%）の順に多く、2歳以下が全体の94.1%を占めています。RSウイルス感染症は、年齢が低いほど重症化しやすいため、注意が必要です。

咳エチケットや手洗いの励行、おもちゃやてすりなどはこまめに消毒するなど感染予防対策を徹底しましょう。

第33週はお盆期間中のため、医療機関の休診の影響により患者報告数が少なくなっている可能性があります。そのため、「定点把握感染症報告状況（週報対象）」（下表）の発生記号の表示を行っていません。

小児科定点からのRSウイルス感染症　年齢階層別報告数
2017年累計（第33週現在）



■定点把握感染症報告状況（週報対象）

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均（注）	発生記号
インフルエンザ	インフルエンザ	1	0.03	0.01	
小児科	咽頭結膜熱	6	0.25	0.46	
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	34	1.42	0.71	
小児科	感染性胃腸炎	79	3.29	2.38	
小児科	水痘	15	0.63	0.37	
小児科	手足口病	73	3.04	1.10	
小児科	伝染性紅斑	3	0.13	0.07	
小児科	突発性発しん	10	0.42	0.30	
小児科	百日咳	－	－	0.01	
小児科	ヘルパンギーナ	14	0.58	0.70	
小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.45	
小児科	RSウイルス感染症	34	1.42	0.36	
眼科	急性出血性結膜炎	－	－	－	
眼科	流行性角結膜炎	7	0.88	0.63	
基幹	細菌性髄膜炎	－	－	－	
基幹	無菌性髄膜炎	－	－	0.23	
基幹	マイコプラズマ肺炎	－	－	0.34	
基幹	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	－	－	－	
基幹	感染性胃腸炎（ロタウイルス）	－	－		

急増減	↑ ↓	前週と比較しておおむね1：2以上の増減
増減	↗ ↘	前週と比較しておおむね1：1.5～2の増減
微増減	↗ ↘	前週と比較しておおむね1：1.1～1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数（小児科定点を含む）	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

（注）過去5年間の同時期平均（定点当たり）

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
4	マラリア	1	1	男性（40歳代）・推定感染地域：国外
4	レジオネラ症	1	15	男性（70歳代）・市外

■定点把握感染症報告状況（週報対象）の推移

			インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎（ロタウイルス）
報告数	広島市	第29週	1	14	63	110	8	196	1	4	4	20	3	9	1	8	－	－	－	－	－
		第30週	－	9	40	71	8	188	1	8	－	12	2	34	1	9	－	－	1	－	－
		第31週	－	12	49	92	7	132	－	13	－	19	－	64	－	7	－	－	－	－	－
		第32週	1	5	21	59	9	96	－	7	－	25	1	46	1	9	－	1	－	－	－
		第33週	1	6	34	79	15	73	3	10	－	14	1	34	－	7	－	－	－	－	－
定点当たり	広島市	第29週	0.03	0.58	2.63	4.58	0.33	8.17	0.04	0.17	0.17	0.83	0.13	0.38	0.13	1.00	－	－	－	－	－
		第30週	－	0.38	1.67	2.96	0.33	7.83	0.04	0.33	－	0.50	0.08	1.42	0.13	1.13	－	－	0.14	－	－
		第31週	－	0.50	2.04	3.83	0.29	5.50	－	0.54	－	0.79	－	2.67	－	0.88	－	－	－	－	－
		第32週	0.03	0.21	0.88	2.46	0.38	4.00	－	0.29	－	1.04	0.04	1.92	0.13	1.13	－	0.14	－	－	－
		第33週	0.03	0.25	1.42	3.29	0.63	3.04	0.13	0.42	－	0.58	0.04	1.42	－	0.88	－	－	－	－	－
	全国	第31週	0.20	0.71	1.50	3.76	0.27	9.51	0.08	0.48	0.01	2.43	0.47	1.56	0.01	0.99	0.03	0.07	0.25	0.01	0.02
		第32週	0.17	0.52	1.05	2.87	0.22	7.12	0.04	0.37	0.01	1.70	0.38	1.66	－	0.75	0.02	0.05	0.24	0.01	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

（検査：広島市衛生研究所）

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(39.9) 丘疹 水疱 咽頭炎 リンパ節腫脹 熱性痙攣	0	男	2017/07/07	咽頭拭い液	ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽA6型
流行性角結膜炎	結膜炎 瞼結膜の発赤・混濁・濾胞	52	男	2017/07/02	結膜擦過物	ｱﾃﾞﾉｳｲﾙｽ4型
無菌性髄膜炎	歩行障害 髄膜炎	1	男	2017/06/27	咽頭拭い液 糞便	ｺｸｻｯｷｰｳｲﾙｽA6型
					咽頭拭い液 鼻汁	ﾗｲﾉｳｲﾙｽ
					咽頭拭い液 尿	ｻｲﾄﾒｶﾞﾛｳｲﾙｽ
その他の呼吸器疾患	発熱(38.7) 鼻炎	1	男	2017/07/11	咽頭拭い液	ﾗｲﾉｳｲﾙｽ

＊感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

★ ダニ類が媒介する感染症に注意しましょう！
－重症熱性血小板減少症候群（SFTS）／日本紅斑熱／つつが虫病－

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）は、西日本を中心に、マダニの活動が盛んな春から秋にかけて患者が発生しています。SFTSは、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることにより感染する病気で、6日～2週間程度の潜伏期間を経て、発熱や消化器症状（食欲低下・嘔気・嘔吐・下痢・腹痛）などの症状が出現します。

このほか、日本紅斑熱やつつが虫病も、ダニ類が媒介する感染症です。

これらのダニ類が媒介する感染症を予防するため、次のような対策をとることが重要です。

・山や草むらに入るときには、長袖・長ズボン、足を完全に覆う靴（サンダル等は避ける）、帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く等、肌の露出を少なくして、ダニの付着を防ぎましょう。

・屋外活動後は入浴し、ダニが付着していないか確認しましょう。

マダニが吸着していた場合は、皮膚科を受診し、除去してもらってください。また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意をし、発熱等の症状が出た場合には医療機関を受診してください。

【参考】厚生労働省「ダニ媒介感染症」　http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。
なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
URL http://www.city.hiroshima.lg.jp/eiken/center.html

【問い合わせ先】
広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所　〒733-8650　広島市西区商工センター四丁目１番２号
TEL(082)277-6575　FAX(082)277-5666　E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp